

在校生のみなさんへ

2022年度『学修時間・教育の成果等に関する調査』の結果について

「東京経済大学 IR 推進委員会」は、教員と学生関係部署の職員から構成され、大学内のさまざまな情報を収集・分析し、その結果を教育・研究、学生支援等に活用する IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を行っています。

本学では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年度～2021年度は遠隔授業を中心に行ってきました。上級生にとっては、これまでの教育環境が激変し、下級生にとっては入学以来対面授業をほとんど経験できない状況が続いていましたが、今年度より対面授業が基本となり、遠隔授業との併用で新たな教育方法が模索されています。教員は、より教育効果を高めるための工夫・努力を続けていますが、みなさんの学修状況や学修成果を知り、その参考とするために、本調査を今年も実施しました。このたび、調査結果がまとまりましたので、過去の結果とも比較し、その概要をご報告いたします。

学生のみなさんには学期末の繁忙期にもかかわらず、回答にご協力をいただき、大変感謝しております。

本学の「全学のディプロマ・ポリシー(全学 DP)」に定められた学修目標の到達度について、各自が自己評価の参考にしてください。自由記述項目で寄せられたみなさんの声もあわせて、今後の教学改革や学生支援に活かしていきます。ありがとうございました。

1、調査の実施概要

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2021 年度	2022年度
調査期間	2016.7.11～ 2016.8.6	2017.7.18～ 2017.8.13	2018.7.2～ 2018.7.31	2019.7.1～ 2019.7.31	2021.07.16～ 2021.08.16	2022.07.19～ 2022.08.16
全体回答者数 (回答率)	1,263名 (19.2%)	871名 (12.9%)	890名 (13.3%)	701名 (10.5%)	1,109 名 (16.9%)	561 名 (8.6%)
1 年生回答率	31.9%	20.9%	27.9%	23.2%	26.9%	16.2%
2 年生回答率	23.4%	14.5%	10.4%	10.3%	23.3%	9.1%
3 年生回答率	14.3%	12.2%	10.4%	7.5%	12.1%	7.0%
4 年生回答率	9.8%	5.9%	5.4%	3.0%	7.4%	2.6%
留年生回答率	3.5%	1.6%	2.6%	1.3%	2.3%	0.5%
E 学部回答率	18.1%	11.9%	10.7%	8.9%	16.3%	9.0%
B 学部回答率	23.4%	15.4%	17.6%	12.8%	18.6%	9.1%
C 学部回答率	16.6%	13.2%	11.7%	9.1%	12.6%	6.6%
L 学部回答率	15.0%	9.6%	10.7%	9.6%	18.6%	8.5%
*回答率の分母は、それぞれのグループの5月1日現在の在籍者数						
質問項目	①最近1週間における平均的な時間の使い方(学修時間の把握) ●出席授業科目数、●授業時間以外の授業に関する予習・復習・課題学習時間、 ●授業とは直接関係のない個人的興味による自主的学習時間、●資格取得受験勉強時間、●アルバイト時間、 ●サークル活動時間、●社会活動(ボランティア等)時間、●インターンシップ・就職活動時間 ②実際に受講し、その結果、実力がついたと思う科目群 ③学習成果・到達度自己評価(全学のディプロマ・ポリシーと具体的な10の力の修得度) ④学習支援施設の利用状況(図書館・学習センター・グローバルラウンジ・教職ラウンジ・地域連携センター等)					
	⑤授業に取り組む姿勢、				⑤遠隔授業を受講したときのデバイスの種類 ⑥遠隔授業で良かったこと／困ったこと ⑦遠隔授業での受講でも十分学習効果のあった科目群 ⑧今後の感染症のリスクが継続時／終息時の遠隔授業実施の希望	
	⑥卒業後の活躍の場について		⑥1年次ゼミの学修成果について			
回答の傾向	アンケート開始から経年変化を見るため毎年同様の調査内容であったことで年々回答率が低下していました。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、学習環境の変化が大きく不安定となったので、一旦アンケート実施を見送りました。コロナ禍のもとでの新しい学生生活スタイルが定着してきた2021年度は、遠隔授業をテーマにリニューアルして再開実施したところ、全体の関心も高まり、回答数が大幅に増えました。今年度は4月から対面授業を基本にスタートしたので、その変化を見る予定でした。しかし、残念ながら回答率が大幅に下がり、過去最低となってしまいました。調査結果への信頼性という問題が残りました。学生への情報提供過多となっている「学生ポータルによる任意回答でのアンケート方法」では調査の限界があるので、次年度以降、さらなる工夫を行っていききたいと思います。					

2、調査結果について

1)最近1週間の平均的な時間の使い方

今年度は4月より対面授業が基本となり、遠隔授業を併用している状況です。昨年度は遠隔授業が基本でしたが、「緊急事態宣言が解除され、対面授業が復活した期間」に調査していますので、細部での差異はあるかとは思いますが、全体の傾向を比較してみたいと思います。

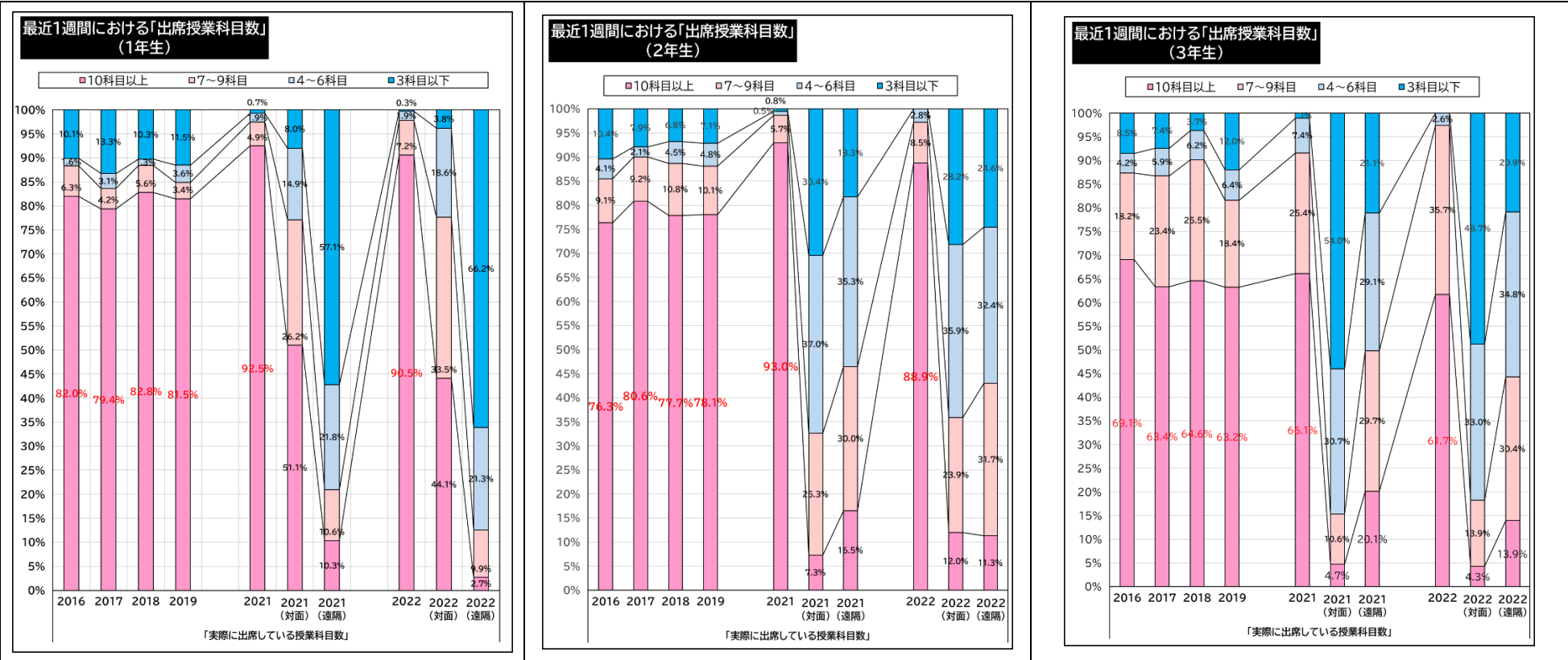
①コロナ禍以前の2019年度までは、ほぼ履修登録どおりに出席している学生は「70%から80%程度」で、約10%程度の学生は1年生から厳しい状況にあり、退学者調査とも連動していましたが、**遠隔授業導入以降、「出席授業科目数」が各学年とも増えている状況が継続しています。**

②**「授業受講時間以外の授業に関する学習時間」も激増**しています。これは、遠隔授業により録画等で復習がしやすくなったことや各授業から課される多くの課題提出のためだと思われます。さらに**「授業と関係のない個人的興味による自主的な学習時間」も増えています。**

③その他、「資格取得のための学習時間」はあまり変わらず、**「アルバイト時間」の減少は経済状況の悪化が心配**されます。**「サークル活動時間」の大幅な減少は正課外で修得していたチームワークやリーダーシップ等の諸能力への影響が心配**されます。

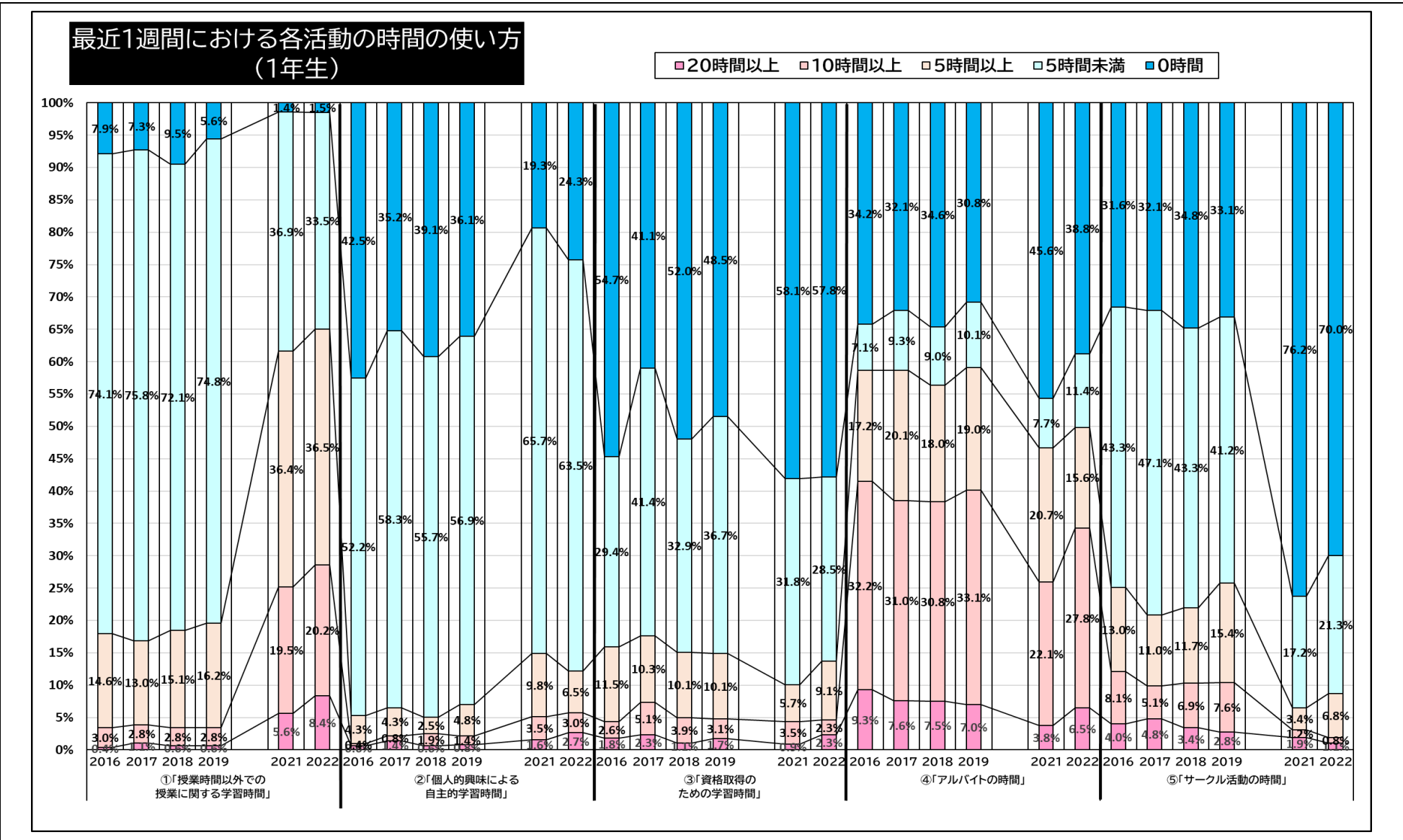
(1)最近1週間の出席授業科目数

* 最近1週間とは対面授業再開期間(2022. 7. 11～2022.7. 17)



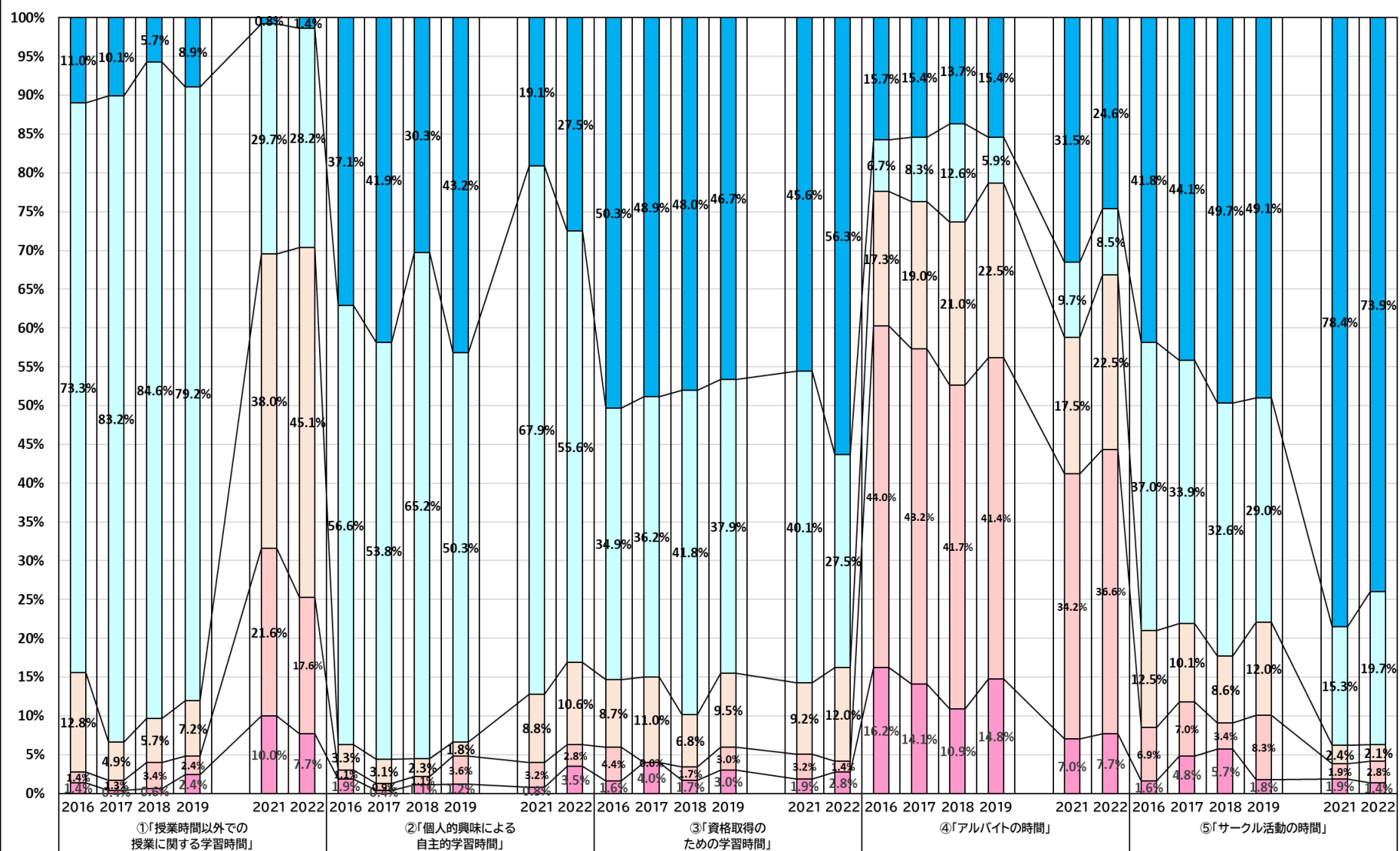
(2)最近1週間の各活動時間

* 最近1週間とは対面授業再開期間(2022. 7. 11～2022.7. 17)



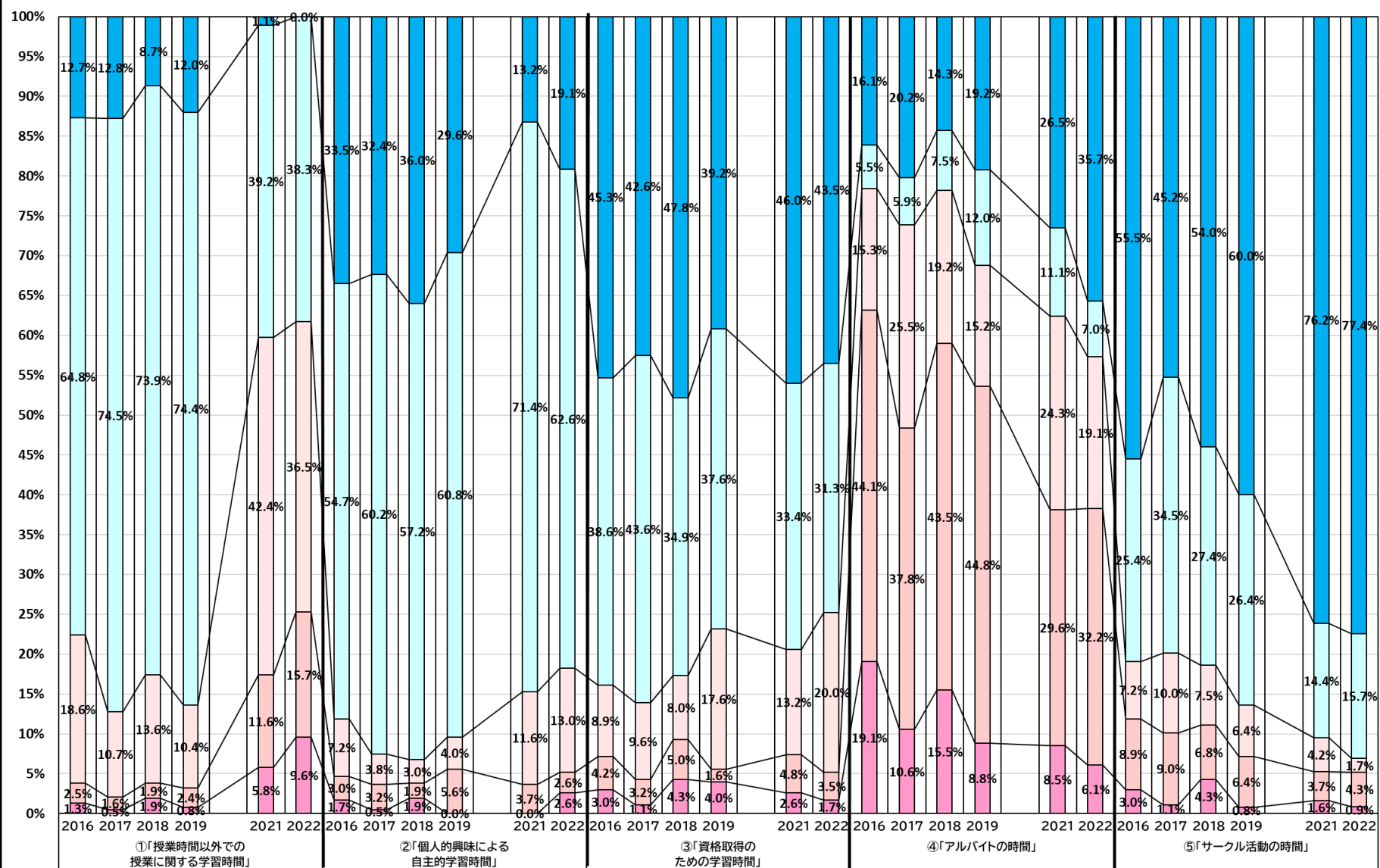
最近1週間における各活動の時間の使い方 (2年生)

■20時間以上 ■10時間以上 ■5時間以上 ■5時間未満 ■0時間



最近1週間における各活動の時間の使い方 (3年生)

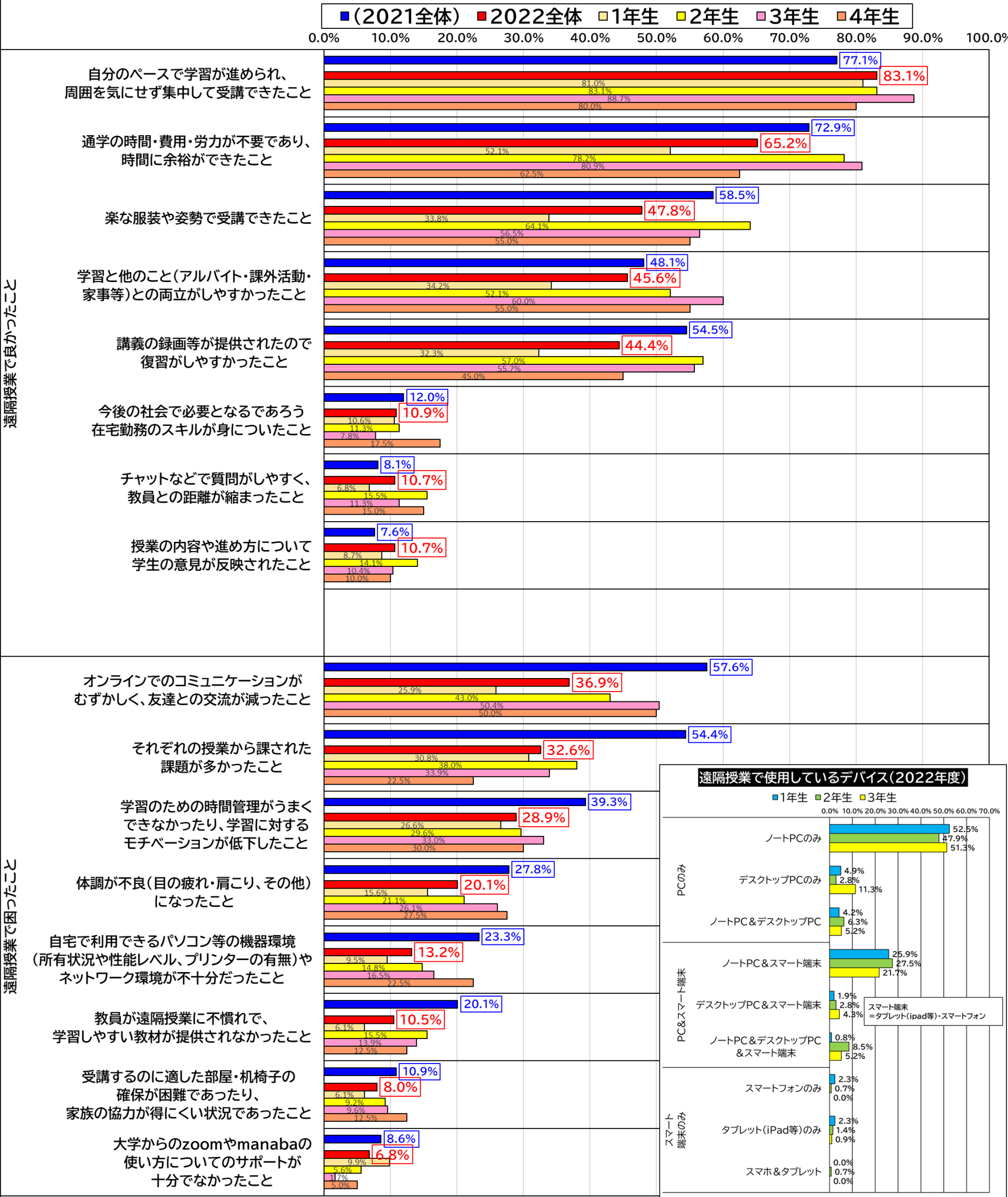
■20時間以上 ■10時間以上 ■5時間以上 ■5時間未満 ■0時間



2)遠隔授業について、「良かったこと」「困ったこと」。

昨年度は、自宅での遠隔授業が長期化し、「自分のペースで集中して学習できている学生は7割」、反対に「学習のモチベーションが下がってしまった学生が3割」と時間管理・自己管理能力が明暗を分けていましたが、対面授業の復活により、「自分のペースで集中して学習できている学生は8割」と改善しています。遠隔授業での「良かったこと」「困ったこと」の全ての項目で回答率が下がっており、遠隔授業が日常化しつつあるのかもしれませんが、一番懸念していた「友人とのコミュニケーション不足」によるストレスが減少したためか、肉体的・精神的体調不良を訴える学生が減ってきたのは良かったことです。

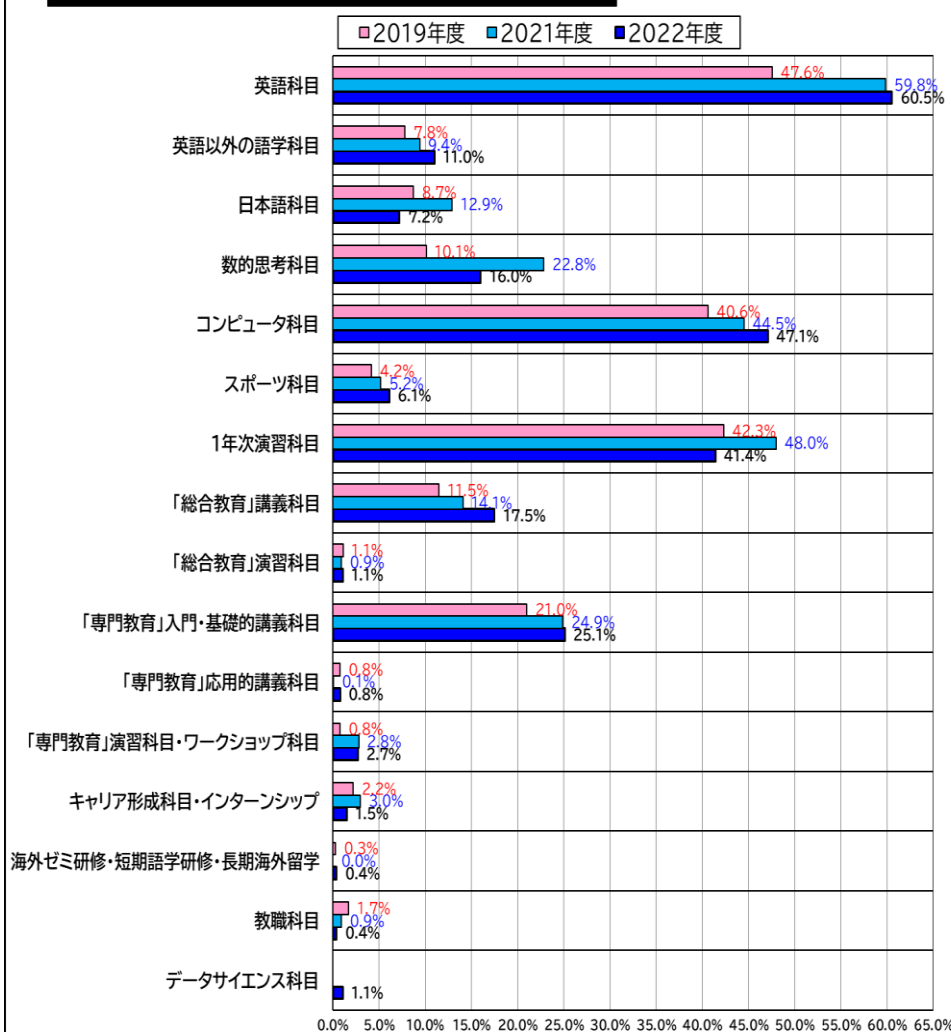
2022年度「遠隔授業について良かったこと・困ったこと」（学年別）



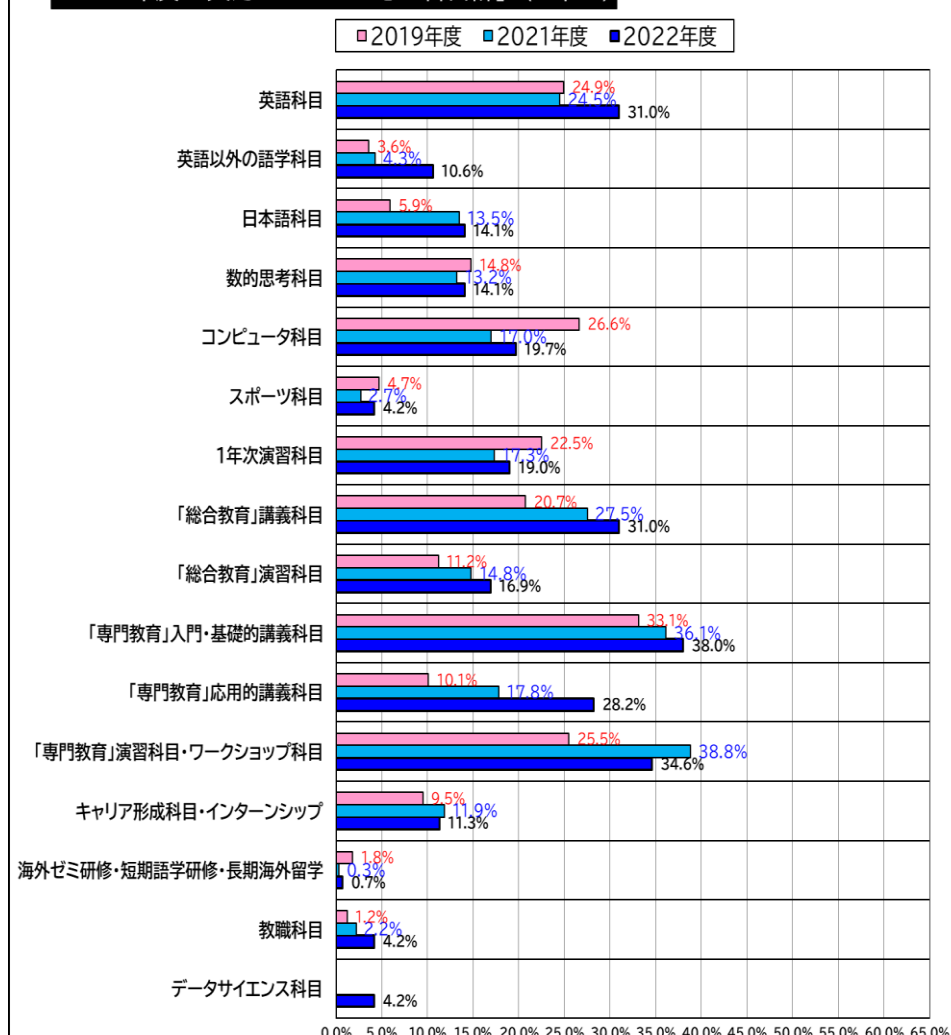
3)「本学の授業で受講し、その結果、実力が上がったと思う科目群(2019・2021～2022年度の比較)」

- ①1年生は、「英語科目」「コンピュータ科目」「1年次ゼミ」が高い自信となっています。一方、「総合教育講義科目」、「専門教育入門・基礎的講義科目」ではあまり自信がついていません。
- ②2年生は「専門教育入門・基礎的講義科目」・「専門教育演習科目・ワークショップ」と「総合教育講義科目」で力がついたと自覚しています。
- ③3年生は「専門教育入門・基礎的講義科目」「専門教育応用的講義科目」「専門教育演習科目・ワークショップ」が力のついた科目群となっています。昨年度との比較では、「キャリア形成科目・インターンシップ」が特に伸びています。
- ④4年生は「専門教育入門・基礎的講義科目」「専門教育演習科目・ワークショップ」に自信を持っています。前年度までの比較では、なぜか「コンピュータ科目」と「1年次演習科目」がアップしています。3年生と同様に「キャリア形成科目・インターンシップ」が特に伸びています。

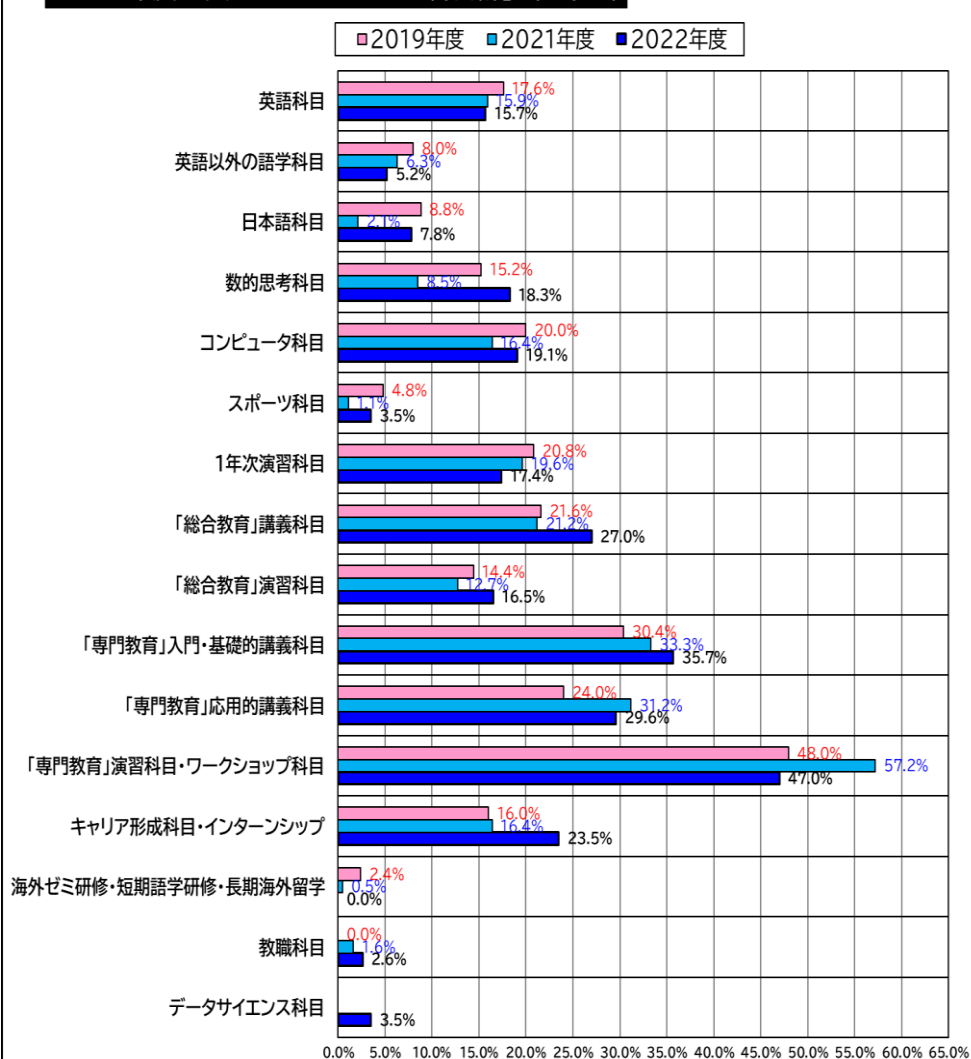
2022年度「実力がついたと思う科目群」(1年生)



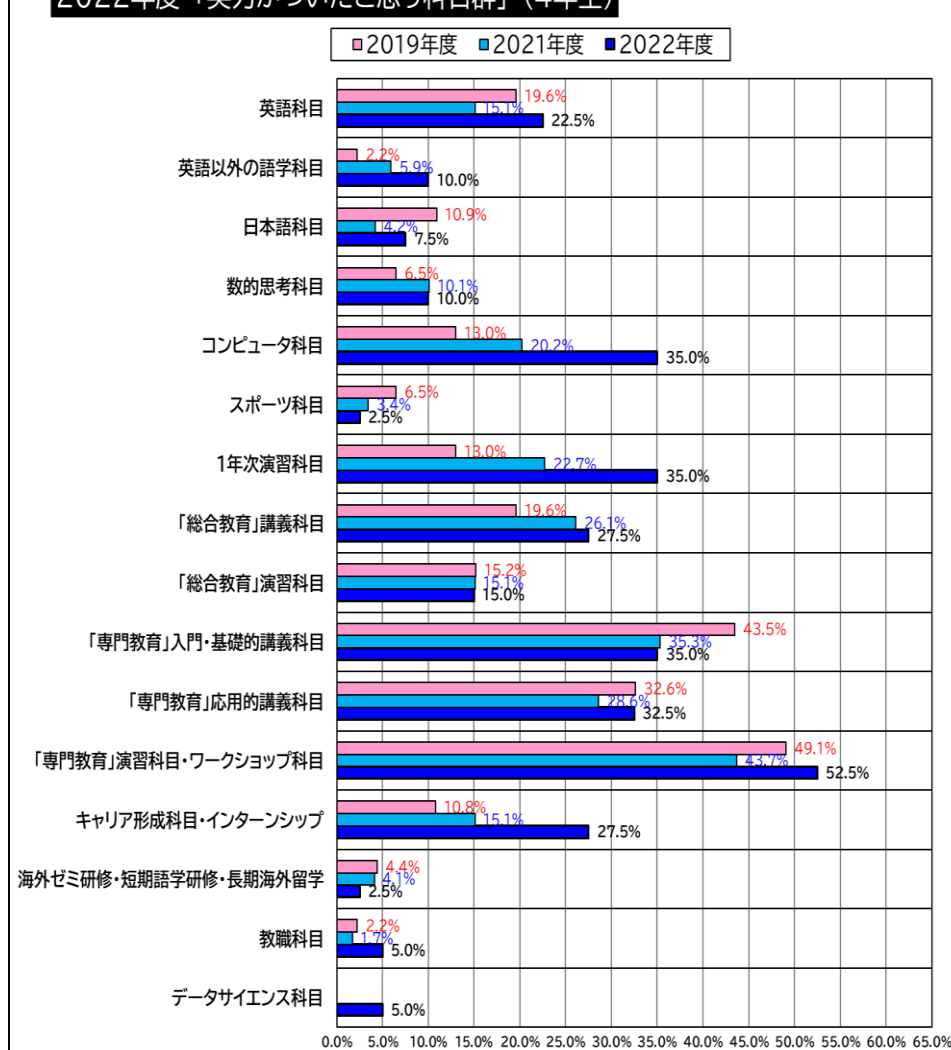
2022年度「実力がついたと思う科目群」(2年生)



2022年度「実力がついたと思う科目群」(3年生)



2022年度「実力がついたと思う科目群」(4年生)



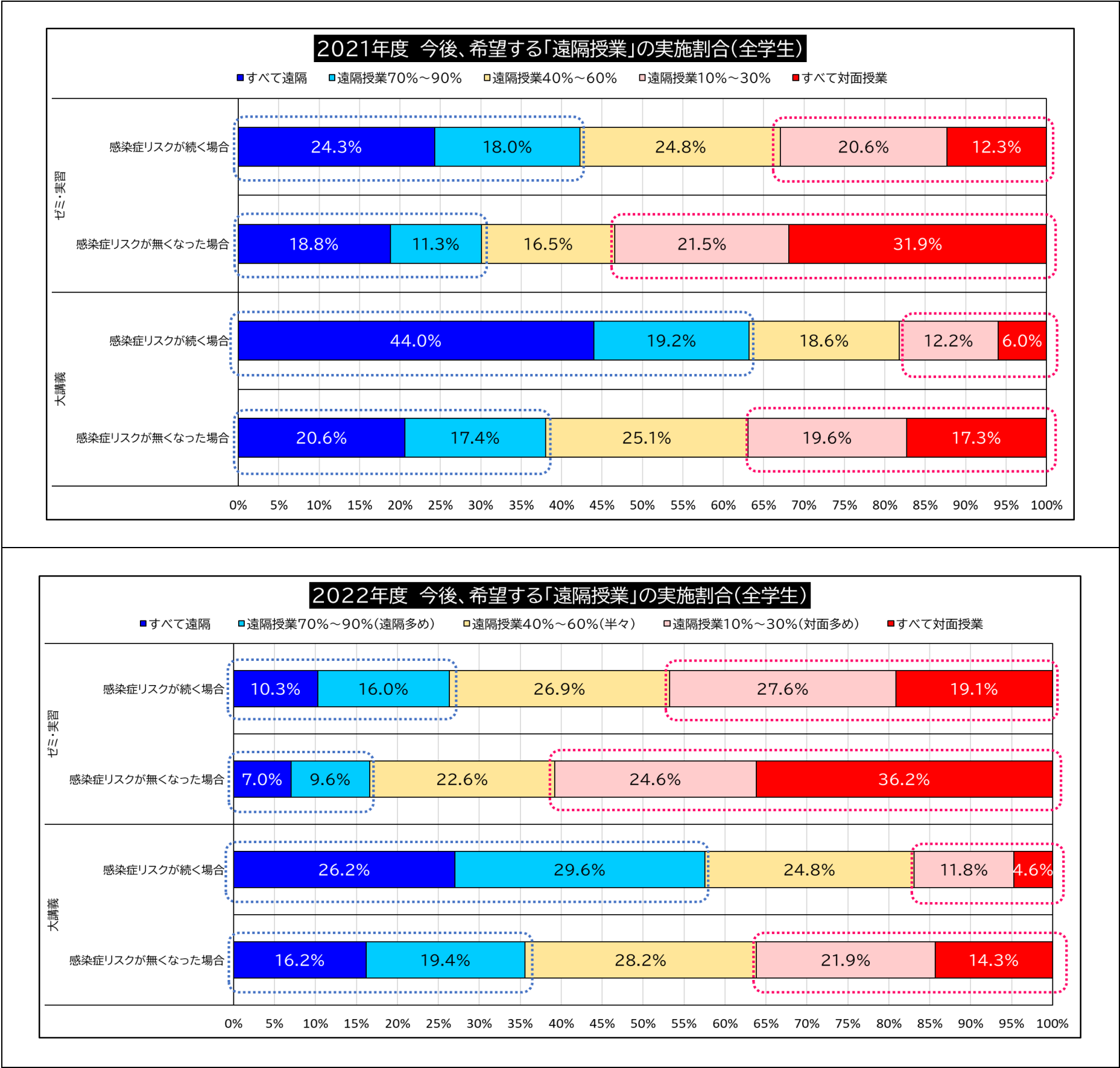
4)「遠隔授業で受講しても十分学修効果があったと思う科目群」

「総合教育講義科目」と「専門教育入門・基礎科目」については、遠隔授業の学修効果を指摘する声が増えています。

	遠隔授業で受講して、十分学習効果があったと思う科目群(回答率10%以上)			
	1年生	2年生	3年生	4年生
2021年度 (遠隔中心)	①英語科目(58.1%) ②1年次演習科目(30.4%) ③コンピュータ科目(28.2%) ④数的思考科目(23.3%) ⑤「専門教育」入門・基礎的講義科目(20.7%) ⑥「総合教育」講義科目(16.2%) ⑦日本語科目(10.8%)	①「専門教育」入門・基礎的講義科目(36.1%) ②「総合教育」講義科目(35.8%) ③英語科目(20.5%) ④「専門教育」応用的講義科目(20.2%) ⑤「専門教育」演習科目・ワークショップ科目(16.2%) ⑥コンピュータ科目(15.6%) ⑦数的思考科目(14.3%) ⑧日本語科目(12.1%) ⑨1年次演習科目(10.8%)	①「専門教育」応用的講義科目(36.0%) ②「総合教育」講義科目(31.7%) ③「専門教育」入門・基礎的講義科目(30.7%) ④「専門教育」演習科目・ワークショップ科目(23.9%)	①「総合教育」講義科目(32.8%) ②「専門教育」入門・基礎的講義科目(31.1%) ③「専門教育」応用的講義科目(25.2%) ④「専門教育」演習科目・ワークショップ科目(24.4%) ⑤「総合教育」演習科目(10.9%)
2022年度 (対面再開)	①「総合教育」講義科目(41.8%) ②「専門教育」入門・基礎的講義科目(25.9%) ③1年次演習科目(12.9%) ④コンピュータ科目(11.0%)	①「総合教育」講義科目(54.2%) ②「専門教育」入門・基礎的講義科目(46.5%) ③「専門教育」応用的講義科目(31.7%) ④数的思考科目(13.4%) ⑤1年次演習科目(10.6%)	①「専門教育」入門・基礎的講義科目(43.5%) ②「総合教育」講義科目(41.7%) ③「専門教育」応用的講義科目(27.0%) ④コンピュータ科目(15.7%) ⑤1年次演習科目(13.0%) ⑥「専門教育」演習科目・ワークショップ科目(10.4%) ⑥英語科目(10.4%)	①「総合教育」講義科目(45.0%) ②「専門教育」入門・基礎的講義科目(32.5%) ③「専門教育」応用的講義科目(22.5%) ④「専門教育」演習科目・ワークショップ科目(17.5%) ⑤キャリア形成科目・インターンシップ(12.5%)

5)今後の遠隔授業実施希望

- ①「ゼミ・実習」は、このまま感染リスクが続いても、リスクが解消されても、「対面実施」を希望する学生が増えています。
- ②「大規模講義」の場合は、リスクが継続した場合、「遠隔授業」の継続が多数派ですが、今年度は「すべて遠隔」よりも「遠隔多め」に変化しています。しかし、リスクが無くなった場合は「遠隔」と「対面」は半々で拮抗しています。



6)学修成果・到達度自己評価

「全学のディプロマ・ポリシーの理解度とその4項目の修得度」に加えて、IR 推進委員会では、「具体的な10項目の汎用的な能力」を設定して、「学生自身の到達度評価」を継続して調査してきました。みなさん一人ひとりが自らの学びの成果(学修成果)として身につけた資質や能力を自己評価し、学修目標の達成状況を可視化されたエビデンスとともに自ら説明できることが求められています。

授業科目成績のGPAを参考に、全学DP5項目と10の能力をあわせた15項目について、「よく身についた=3点」、「ある程度身についた=2点」、「あまり身につけていない=1点」、「ほとんど身につけていない=0点」として数値化しました。

①修得度意識の高いのは「実践的コミュニケーション力」「社会市民力」、低いのは「ICT利用・情報活用力」「チームワーク力・リーダーシップ」「異文化理解力」という傾向が毎年度ずっと続いています。本学学生の長所でもあり、短所でもある「おとなしくてまじめ」「みんなで仲良く」がよく表れていますが、一步踏み出す「進一層」が必要なようです。

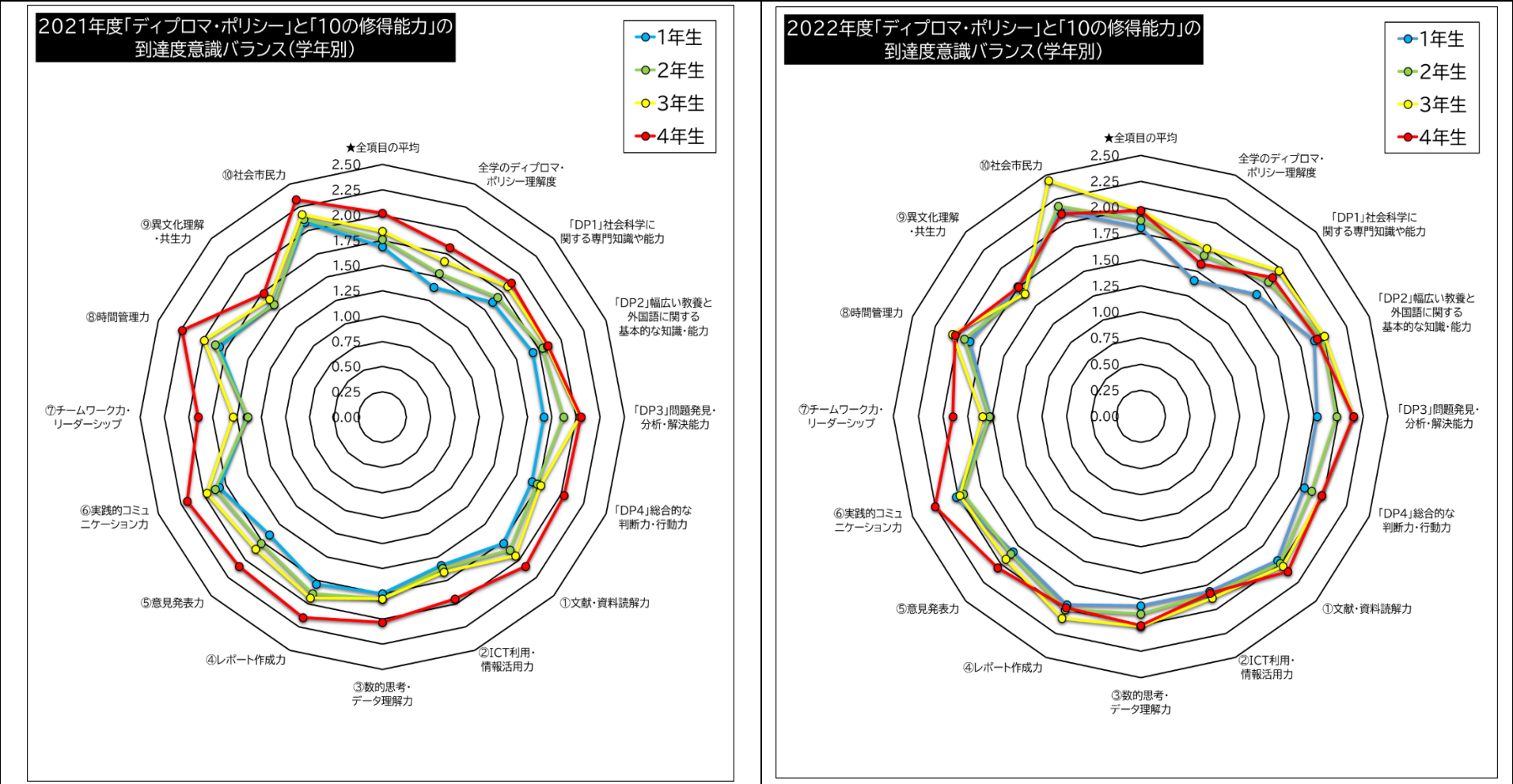
②2022年度調査では、ほとんどの項目において自己評価が高まっていますが、アンケート回答数が減ったことの影響かもしれません。

③「全学DP5項目」は前回から設問をわかりやすく表現し直したものの、「全学DPの理解度」と「社会科学に関する専門知識・能力」があまり上がりません。

④学部別では、経済学部、経営学部と現代法学部は全体平均と同様な傾向を示すバランス型ですが、経済学部では特に「数的思考・データ理解力」が、コミュニケーション学部は「実践的コミュニケーション力」「異文化理解・共生力」が上位に入ってきます。

	身についたと思う資質・能力	2019年度 全体平均値	2021年度 全体平均値	2022年度 全体平均値	前年度比
全学DP	「全学DP」全体の理解度	1.58	1.54	1.56	+0.02
	DP1 社会科学に関する専門知識・能力	1.45	1.70	1.78	+0.08
	DP2 幅広い教養と外国語に関する基本的な知識・能力	1.36	1.76	1.95	+0.19
	DP3 現代社会における諸問題あるいはさまざまな学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力（実践的知力）	1.43	1.84	1.93	+0.09
	DP4 上記の知識・能力に裏付けられた総合的な判断力と行動力（進一層）	1.39	1.75	1.86	+0.11
10項目の 具体的能力	①文献・資料読解力	1.62	1.86	1.99	+0.13
	②ICT利用・情報活用力	1.36	1.65	1.83	+0.18
	③数的思考・データ理解力	1.37	1.80	1.88	+0.08
	④レポート作成力	1.64	1.89	1.99	+0.10
	⑤意見発表力	1.60	1.77	1.87	+0.10
	⑥実践的コミュニケーション力	1.80	1.90	2.01	+0.11
	⑦チームワーク力・リーダーシップ	1.39	1.47	1.57	+0.10
	⑧時間管理能力	1.95	1.91	1.93	+0.02
	⑨異文化理解・共生力	1.59	1.61	1.72	+0.11
	⑩社会の一員として良心と規範に従って行動できる社会市民力（責任と信用）	1.97	2.14	2.20	+0.06
15項目の平均値		1.57	1.77	1.87	+0.10

*年度ごとの15項目の平均値を上回る項目は、赤の網掛け、下回る項目は青の網掛け



2022年度 学部別「学修成果」上位項目			
経済学部	経営学部	コミュニケーション学部	現代法学部
①社会市民力(2.30) ②数的思考・データ理解力(2.02) ③レポート作成力(2.01) ④文献・資料読解力(1.95) ④実践的コミュニケーション力(1.95) ⑥幅広い教養と外国語力(1.92)	①社会市民力(2.16) ②実践的コミュニケーション力(2.03) ③文献・資料読解力(2.01) ④レポート作成力(2.00) ⑤DP2 幅広い教養と外国語力(1.98) ⑤時間管理能力(1.98)	①社会市民力(2.22) ②実践的コミュニケーション力(2.13) ③異文化理解・共生力(2.07) ④文献・資料読解力(1.96) ⑤レポート作成力(1.96) ⑥DP4 総合的判断力・行動力(1.94)	①社会市民力(2.08) ②文献・資料読解力(2.03) ③DP2 幅広い教養と外国語力(1.95) ③レポート作成力(1.95) ③実践的コミュニケーション力(1.95) ③時間管理能力(1.95)

＊赤字は、前ページの全体平均と比較した場合の学部の特徴を示す項目

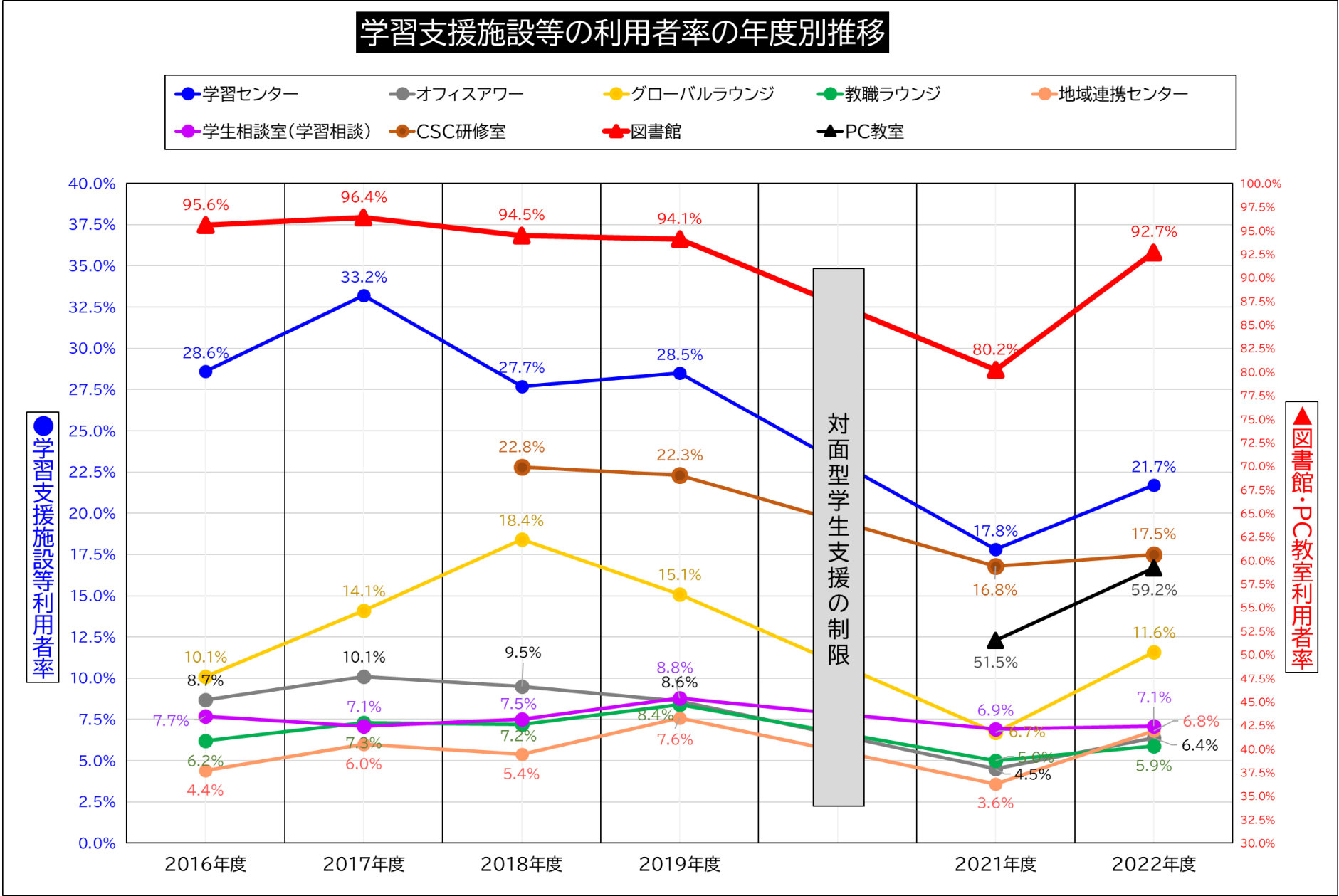
2022年度 学部別「学修成果」下位項目			
経済学部	経営学部	コミュニケーション学部	現代法学部
⑬異文化理解・共生力(1.71) ⑭全学 DP 理解度(1.57) ⑮チームワーク力・リーダーシップ(1.52)	⑬異文化理解・共生力(1.72) ⑭チームワーク力・リーダーシップ(1.61) ⑮全学 DP 理解度(1.55)	⑭チームワーク力・リーダーシップ(1.55) ⑭数的思考・データ理解力(1.52) ⑮全学 DP 理解度(1.49)	⑭チームワーク力・リーダーシップ(1.56) ⑭全学 DP 理解度(1.56) ⑮異文化理解・共生力(1.48)

7)授業以外での「各学習施設」等の利用状況

本学の中規模大学としての特性を生かした学習支援・学生支援である「各学習支援施設における面倒見の良さ＝対面サービス」が「コロナ禍」で困難になりました。実際に利用率も下がっていましたが、リモートサービスへの移行で支援の継続を努力してきました。2022年度は4月から対面授業が復活したので、うれしいことに各施設とも学生が帰ってきています。さらに学生の皆さんからの具体的な要望を寄せていただき、「新たなスタイルの個別学生支援」を発見するチャンスでもあります。

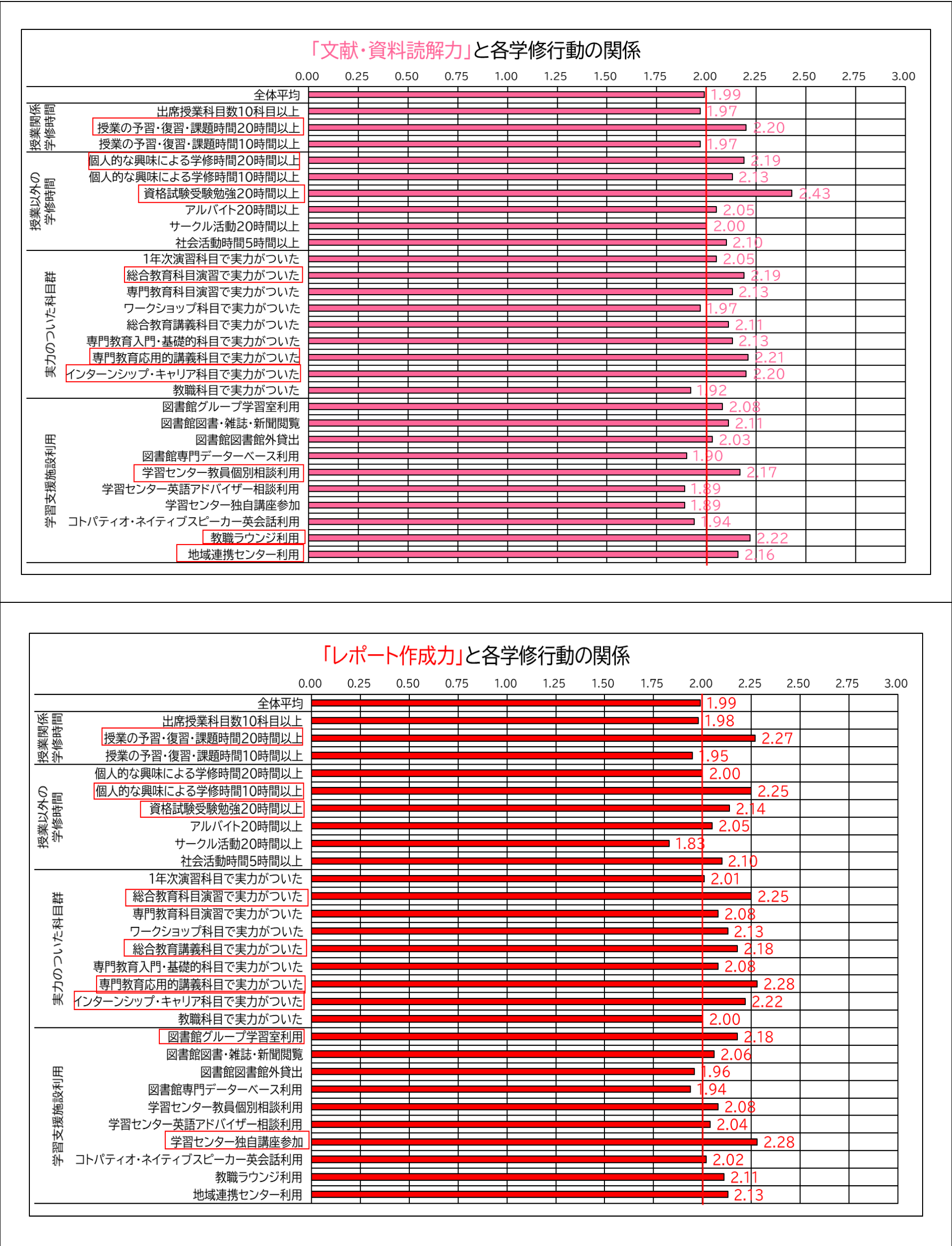
「遠隔授業について困ったこと」のトップは、「友人や教員との直接コミュニケーション不足」でした。1年生は改善されてきたものの、上級生は未だに交流不足を困っています。課外活動も厳しい状況です。図書館・学習センター・グローバルラウンジ・地域連携センター・教職ラウンジ・学生相談室等は、みなさんの学習支援を目的に活動していますが、それぞれに相談にのってくれる教職員やアドバイザーが常駐しています。オンラインでの相談やイベント参加でもいいのでぜひ積極的にアクセスしてみてください。

このような状況下でも、学習支援施設をうまく利用している学生が学修成果を高めています。



8)「学修時間・学修行動等」と15項目の「修得能力到達度」との関係について

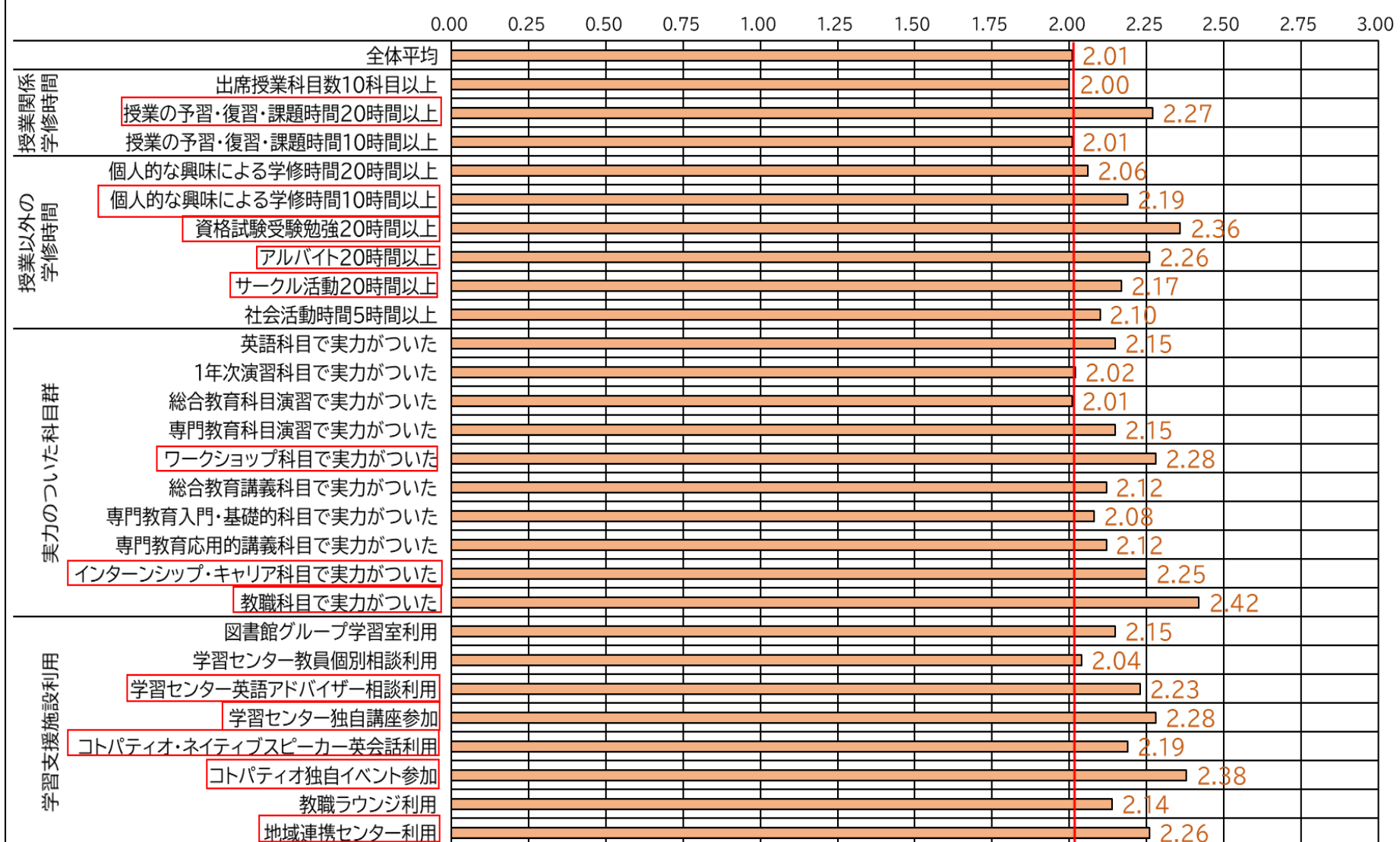
最後に、学生のみなさんの「積極的な学修行動」に注目し、「それぞれの能力の修得度」に結びついているかどうかを考えてみます。
15項目のうち、授業の受講にかかわる7項目に絞ってみました。特に関係があると思われる学修行動を「赤枠」で囲ってみました。



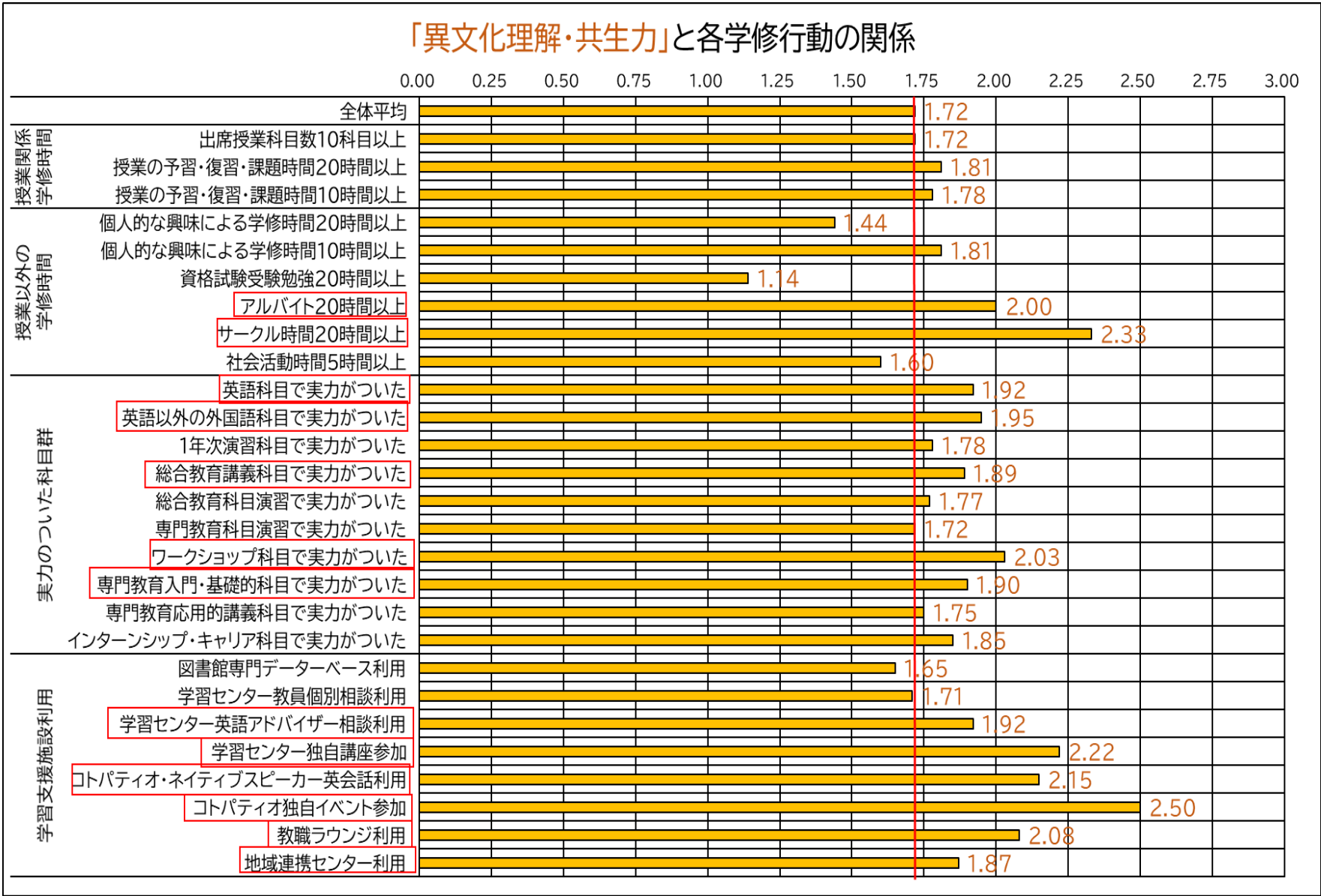
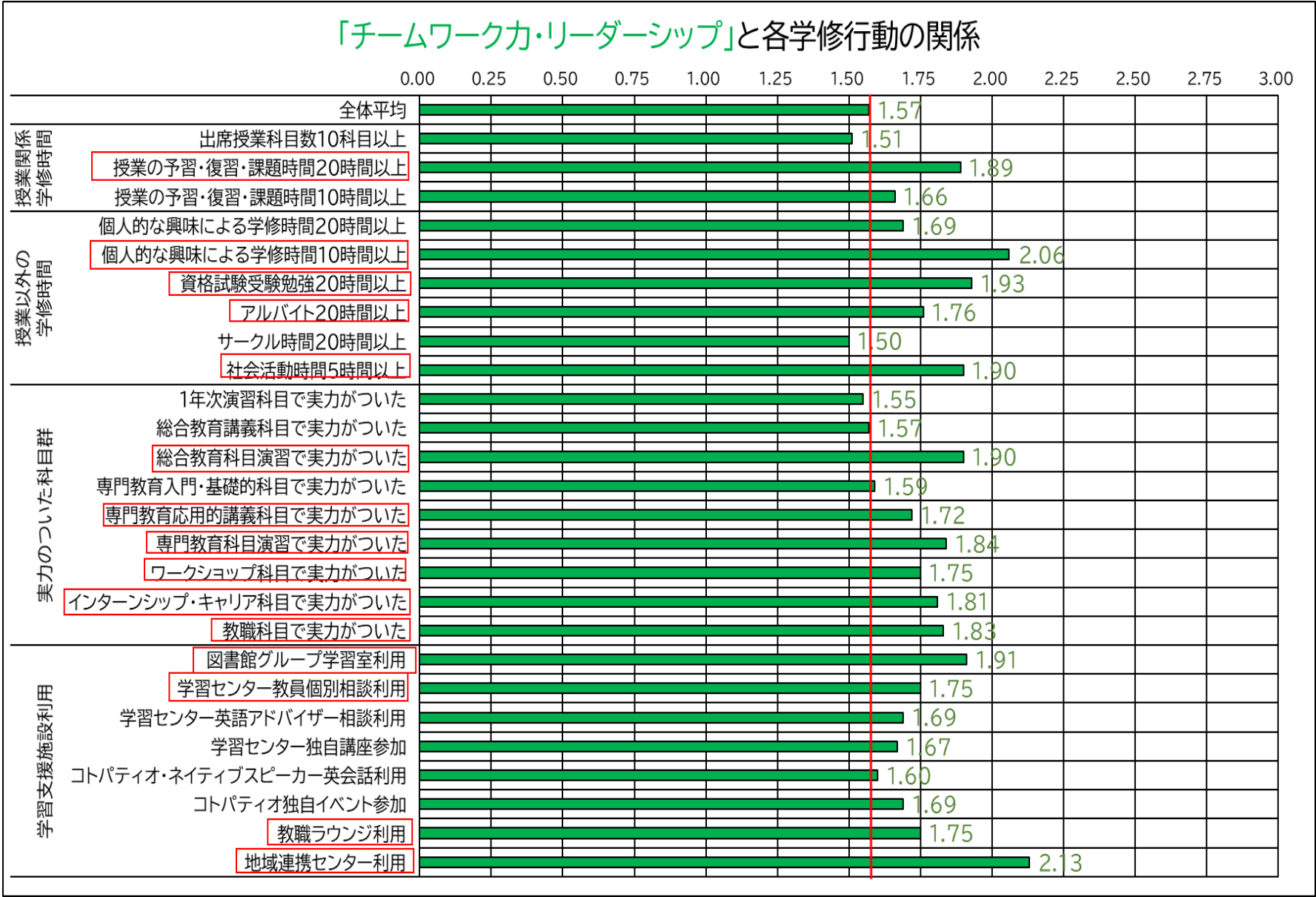
「意見発表力」と各学修行動の関係



「実践的コミュニケーション力」と各学修行動の関係



以下は、本学の学生が特に苦手と感じている2項目です。



3、調査結果からの学生のみなさんへのメッセージ

調査の結果、学修成果をさらに高め、社会に出ても役立つ汎用的能力を身につけるためには、以下の学修行動が重要だと思われます。特に、コロナ禍の多くの制約の中で、できることから工夫して挑戦していきましょう。

①正課授業の学修を深める。

- (1)1年次ゼミをスタートにさらに続けて、専門・総合教育の様々なゼミやワークショップ等少人数授業に積極的に参加する。
- (2)講義科目から派生して、自分の興味に従い、小さなテーマから始め、専門知識や教養をどんどん増やしていく。
- (3)授業の担当教員と積極的にコミュニケーションして、これぞという先生を発見する。

②正課授業の学修をはみ出す。

- (1)授業に関係しない個人的興味による学修時間も大幅に増やす。
- (2)資格取得のように目標が明確な学修に取り組む(アドバンスト・プログラムや教職課程)。
- (3)様々な制約がある中でも、課外活動やアルバイトに取り組む。

③地域や世界に飛び出し、多様な他者と交わる。

- (1)コロナ禍で友達ができない時・自信が無い時は、まずは学習センターや学生相談室等の教職員・相談員と顔なじみになり、そこから徐々に友人の輪を広げて行く。
- (2)地域連携センターやグローバルラウンジを基地にして社会的な活動に挑む。

④自己評価力を高める。自信をつけるためのエビデンスを楽しく集めていく。

例えば、4年間で図書館の本を 100 冊読んでみるという目標を立てて、読書記録を作っていく。
具体的には、生協と図書館とがコラボして実施している「読書マラソン」に参加して、スタンプをゲットしてみたらどうか。

以上